九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

中国語における自由間接話法

Hagenaar, Elly

中里見, 敬
九州大学大学院言語文化研究院 : 助教授 : 中国文学

https://doi.org/10.15017/6474

出版情報：言語科学. 37, pp.85-95, 2002-03-04. Faculty of Languages and Cultures, Kyushu University
バージョン：
権利関係：Translated from Hagenaar, Elly, 'Free indirect Speech in Chinese' published in Reported Speech, edited by Theo A. J. M. Janssen and Wim van der Wurff, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company, 1996, pp. 289-298, with the permission of the publishers and the author.

（翻訳）中国語における自由間接話法

Elly Hagenaar 著　・　中 里 見　　敬 訳

Free Indirect Speech in Chinese

Elly Hagenaar
Translated into Japanese by Satoshi Nakazatomi

言　語　科　学

第　37　号

九州大学大学院言語文化研究院言語研究会

2002

中国語における自由間接話法

Elly Hagenaar 著，中里見 敬 訳

【解題】

本訳稿は、Theo A. J. M. Janssen and Wim van der Wurff ed., *Reported Speech: Forms and Function of the Verb*. (Amsterdam and Philadelphia: John Benjamins Publishing Company, 1996) の第四章に収録された Elly Hagenaar, "Free Indirect Speech in Chinese" を翻訳したものである。

自由間接話法の研究は、西欧諸語に関しては 20 世紀初頭以来、豊富な蓄積があるのに対して、中国語については言語学的に十分議論されていないだけでなく、文学的にもほとんど関心の対象となっていない。そうした現状において、オランダのライデン大学元教授 Elly Hagenaar 氏によるこの論文は西欧語や日本語とも対比しつつ、中国語自由間接話法の特徴を簡潔に論じており、今後の議論に資するところが少なくない。翻訳に際して、例文に日本語訳を付した。

Hagenaar 氏には別に、*Stream of Consciousness and Free Indirect Discourse in Modern Chinese Literature* (Leiden: Centre of Non-Western Studies, Leiden University, 1992) という専著があり、文学面から自由間接話法の問題を論じている。

なお、自由間接話法に関する日本の研究書誌として、保坂宗重・鈴木康志「体験話法（自由間接話法）文献一覧——わが国における体験話法研究——」（水戸：茨城大学教養部，1993）がある。また、中国語自由間接話法に関する日本の研究書誌は、訳者による「日本における中国語自由間接話法研究（文献目録）」がある。(http://www.rc.kyushu-u.ac.jp/~naka/free_indirect.htm)

本訳稿の発表にあたって、原著者 Elly Hagenaar 氏および出版社 John Benjamins Publishing Company より許可を得た。原書の編者 Wim van der Wurff 氏には仲介の労をとっていただいた。また、自由間接話法研究全般にわたって、名古屋工業大学の鈴木康志氏より資料の紹介・提供で多大なご援助を賜った。南京大学高級進修生の上原尉暢氏には資料調査でひとかたならぬお世話になった。記して各位に感謝する。

1. 導入

印欧語の独立した文において、それが自由間接話法であるかどうかを識別するのに決定的な役割を果たすのは、動詞の時制である。例えば、次のような場合である。

(1) Flowers? Yes, flowers, since he did not trust his taste in gold...

(Virginia Woolf, *Mrs Dalloway*, p.124)

［花か？そう、花がいい。金のアクセサリーを見る目には自信がないからな。］訳注 1

現代中国語の最も驚くべき特徴の一つは、それがアスペクトの優勢な言語であって、動詞の時制に相当するものが存在しないという事実である。それゆえ、中国語においてはいかなる標識によって自由間接話法を識別するのかという問題が生じる。この問題に対する本稿の言語学的アプローチは、現代中国文学の分野における私の詩学的研究に基づくものである(Hagenaar 1992)。

まず時制の体系とアスペクトの体系の相違について手短に検討したうえで、中国語の自由間接話法を識別する際の問題点を記述するために、自由間接話法の標識に関する Doležel (1973)の分析を援用することとする。

2. アスペクト

中国語において、アスペクトは動詞の後に置かれる特定の接尾辞によって表される。例えば、持続のアスペクトは、以下の例文のように、「着」によって表示される原注 1。

(2) 这包厢的其它铺位依然空着。
The other berths in the compartment were still empty.
［そのコンパートメントのほかの寝台は空いたままだった。］

(3) 在没人的地方活着还有什么意思呢？
What fun is/was it living where there are no people?
［人のいないところで暮らして、何か楽しいことがあるのだろうか。］

中国語にも完了のアスペクトがあり、例文(4)のように接尾辞「了」によって表示される。

訳注 1) ウルフ、丹治訳 158 頁による。近藤訳では 146 頁。自由間接話法の日本語訳に関しては、丹治訳のほうがすぐれている。

原注 1) 説明のために用いた文章の出典は、馮驥才による短編小説「感謝生活」(1985 年刊)、および施蟄存の短編小説「春陽」(1933 年刊) である。当該箇所のテクスト全体は、付録に記した。

(4) 几小时前天就黑了。

It had/has already been dark for a few hours.

［数時間前に日は暮れた。］

接尾辞「了」は完了のアスペクトだけでなく、そのほかの機能も持っている。

時制とアスペクトの体系の関係については、例えばその二つの体系を結合させた言語であるロシア語に関して、研究が進んでいる。Roman Jakobson (1971: 134)[訳注 2] は、時制とアスペクトの主要な相違を、Jespersen (1922: 123)[訳注 3] の「転換子」(shifters)という概念に結びつけた。転換子とは、発話場面（言表行為の過程）またはその参加者を直示する言語学的カテゴリーである。物語(ナラティブ)テクストは、語り手のレベルや作中人物のレベルといった、複数の異なる語り(ナレーション)のレベルから成り立っている。転換子が語りのレベルを転換させる手段となるのに対して、非転換子(non-shifters)はもっぱら同一のレベル内においてのみ機能する。

Jakobson (1971: 136)は、時制が転換子のカテゴリーに属するのに対して、アスペクトは非転換子に分類されることを論証した。言い換えると、アスペクトはもっぱら語られた出来事を描写するのであって、語りの場面、すなわち（訳者補：語り手が出来事を）引用する場面を描写することはない。例えば例文(4)において、文末の接辞「了」は状況の変化を表しており、夜のとばりがおりる、すなわち空が暗くなるということが、ある特定の時点、「几小时前」（［数時間前］）に完成していることを意味している。これは引用の時点を描写しているのではない。

中国語の物語テクストにおいて、アスペクトは過去と現在という物語時制を区別するのに役立たない。例文(2)の英訳で過去時制を選択したのは、コンテクストに依拠したからにほかならない。そのため、物語の冒頭における時間指示はしばしば不明確にならざるをえない。そのことは、一例をあげれば、例文(2) (3) (4)が取られた小説の書き出しにあてはまる。数ページ読み進んではじめて、読者は時間の枠の複雑さに気づくのだ。冒頭に描かれた列車の車中で、語り手はある男からこの小説で語られる物語を聞かされる。語り手が短い一段落で、「为了他的安全，我一直靠记忆把它保存心中。只有在今天才能如实地写在纸上。」（［彼の安全のために、ずっと記憶によってその話を心中に留めておいた。今日ようやくありのままに紙に書くことができるようになった。］）と表明するとき、語り手は複雑な時間の枠について述べているのである。

訳注 2）ヤコブソン、川本茂雄監修、長嶋善郎訳 155 頁。
訳注 3）イェスペルセン、三宅鴻訳 229 頁。

3. 自由間接話法

物語の時制を表示する動詞の形態を持たないことは、中国語における自由間接話法の形式に影響を与えている。ヨーロッパ諸語におけるその最も簡潔な形式——過去の時間を指示する動詞と、未来を指示する時間副詞との結合——は、中国語においてはありえない。Käte Hamburger (1968: 65)の古典的例文 *Morgen war Weihnachten*（'Tomorrow was Christmas'［明日はクリスマスであった］）[訳注 4] は、中国語に対応する文が存在しない。自由間接話法において動詞の時制が果たす決定的な役割を、アスペクトが代わりに果たすことはありえない。そこで、動詞の時制の欠如が、自由間接話法を識別するうえでどのような影響を与えるのかという問題が生じる。

時制とアスペクトの違いがもたらす影響は、複数の語りのレベルに関係する。自由間接話法においては、異なる語りのレベルが混在している。ドストエフスキーの小説における自由間接話法の研究の中で、Wolf Schmid はこの現象に対して「テクスト干渉」(text interference)という術語を導入している(1973: 45)。彼によると、物語テクストには、語り手のテクストと作中人物のテクストという、二つの要素が含まれる。この二つは、当該のテクスト断片の起源が何であるかによって区別される。テクスト干渉においては、一つの発話中にこの二要素が混在している。自由間接話法はテクスト干渉の形式であるから、この両者の特徴を兼ね備えている。語り手のテクストに属す特徴（すなわち引用する語り手に起源をもつ特徴）もあれば、作中人物のテクストに属す特徴（すなわち語り手によって引用された発話者に起源をもつ特徴）もあるのである。

Lubomír Doležel (1973)は自由間接話法の様々な特徴の厳密な由来について研究を行った。例えば、文法的人称の体系は、語り手のテクストに由来している。つまり、語り手が物語を語るときに三人称の体系を用いれば、自由間接話法の部分もまた三人称となる。このことは次の文によって例証される。

(5) And were they good boys at school? (James Joyce, *Ulysses*, p.219)
［学校ではいい子にしているのかな？］[訳注 5]

自由間接話法によって引用される疑問文は、直接言表による疑問文となっている。

訳注 4）ハンブルガー、植和田訳 60 頁。
訳注 5）ジョイス、丸谷・永川・高松訳 I: 537 頁。

Doležel の分析によれば、動詞の時制が特殊なケースである理由は、語り手の発話と作中人物の発話とにおける用法が異なるからである(1973: 26-28)。語り手の発話においては、時制は転換子としてでなく、完全な（訳者補：時制として）使用されているのに対して、作中人物の発話においては、動詞の時制は転換子となっている。次の一節が、その対照を例証している。

(6) 'I prefer men to cauliflowers' —— was that it? He must have said it at breakfast one morning when she had gone out on to the terrace —— Peter Walsh. He would be back from India one of these days, June or July, she forgot which, for his letters were awfully dull; it was his sayings one remembered; his eyes, his pocketknife, his smile, his grumpiness and, when millions of things had utterly vanished —— how strange it was! —— a few sayings like this about the cabbages. (Virginia Woolf, *Mrs Dalloway*, p.7)
［それとも「ぼくはカリフラワーなんかより人間をながめてるほうがいい」だったかしら。彼がそう言ったのは、たしかある朝の食事どき、わたしがテラスに出ているときだった。ピーター・ウォルシュ。じきにインドから帰ってくる。六月だったか、七月だったか、忘れてしまった。ひどく退屈な手紙だったから。思い出すのはあの人の言葉、それにあの目、あのポケット・ナイフ、あの微笑み、あの不機嫌さ。無数の出来事が完全に消え去ったというのに——なんて不思議なんだろう！——キャベツかなにかについての些細な言葉は残っているなんて。］ 訳注 6

上の一節において、直接引用による作中人物の発話は、現在時制("I prefer")となっている。過去時制は語りの時制であって、未来の時点に言及する場合（"one of these days"で示されている）ですら、過去時制の形式を伴った自由間接話法によって引用されている("he would be back")。語りの時制とは、語り手による発話の動詞時制のことである。動詞の時制は混在したカテゴリーとなっており、そこでは語りの時制が作中人物の時間指示に干渉しているのである。

自由間接話法の特徴を示す時制以外の四つのカテゴリーを示すと、以下のとおりである。意味論的特徴（例文(6)における"awfully"）、統語論的特徴（感嘆文"how strange it was!"）、ダイクシス("one of these days")、文脈的特徴（例文(6)を含む自由間接話法の一節の前にある"thought Clarissa Dalloway"［ク

訳注 6）ウルフ、丹治訳 11 頁による。近藤訳では 4 頁。

ラリッサ・ダロウェイは思った］という作中人物の思考に対する指示）の四つである。この四つのカテゴリーはいずれも作中人物のテクストに由来するものであるから、自由間接話法における語り手のテクストの要素は、文法的人称の体系および語りの時制によって構成されていると結論しなければならない。

4. 中国語の場合

動詞時制のカテゴリーは混在した起源に基づくものであるから、動詞の時制が欠如していることによって、中国語の自由間接話法においては、他の言語に比べて、語り手のテクストおよび作中人物のテクストの両方がともにより不明瞭になるという効果が生じる。作中人物のテクストの場合、唯一、文法的人称のみが、作中人物と関連する特徴として残されるにすぎない。このことはつまり、自由間接話法と完全な作中人物による発話（すなわち直接話法）を区別するには、文法的人称の体系による以外に方法がないことを意味する。

共通の伝達部（先行詞）によって導かれた直接話法と間接話法を区別する際においても、文法的人称は重要な役割を果たす。そのことを以下の例文によって説明してみよう。

(7) a. 他对老师说：“我是第一个到的。”
He said to the teacher: “I arrived first.”
［彼は先生に言った、「僕が一番に来たんだよ。」］

b. 他对老师说他是第一个到的。
He said to the teacher that he arrived first.
［彼は先生に彼が一番に来たのだと言った。］

(7a)と(7b)の唯一の違いは人称代名詞である。中国語における直接話法と間接話法の違いは、ある程度まで、日本語の場合と似通った曖昧さという問題を提起する。日本語に関しては、Florian Coulmas (1986: 167-175)が直接話法と間接話法の違いについて論じている。

中国語は敬語動詞の体系を持たないために、直接話法と間接話法の違いは、ある意味で日本語にもましていっそう小さいといえる。例文(7a) (7b)で示したような中国語における敬語の欠如は、この二つの言語のもう一つの相違点

である。

上述したもろもろの理由によって、人称代名詞および所有代名詞が言語学的標識として特別の役割を担うことになる。しかし、日本語と同様に（Coulmas 1986: 169 参照）、中国語は人称代名詞や所有代名詞をかなり頻繁に省略するという点が、英語やその他の印欧諸語と異なる。例えば、『ユリシーズ』の中国語版では、例文(5)は次のように翻訳されている。

(8) 都是好学生吗？[訳注 7]
［みんないい生徒ですか？］

例文(8)における人称代名詞「都」は複数であることを示すだけで、人称に関しては不確定である。

発話の主語は、中国語においてはきわめてしばしば言表されない。付録 1 に示したテクストは、例文(2) (3) (4)を含む一節であるが、その実例として役立つだろう。この中国語テクストの中では、ただわずかに人称代名詞「我」（'I'［私は］）と再帰代名詞「自己」（'myself'［自分で］）が、次の一文中に用いられているにすぎない。

(9) 我便总喜欢自己陪着自己。
I always liked to keep myself company.
［私はいつも自分で自分のお供をするのが好きだった。］

これ以外の文は、人称が不確定なままであるが、英語に翻訳するときには人称を特定しなければならない。したがって、自由間接話法における語り手のテクストの要素は、（訳者補：人称代名詞が省略されることによって）ますます明確な標識を欠くことになるのである。

自由間接話法が発生するのは、作中人物のテクストと語り手のテクストが融合するときである。このことは、中国語において自由間接話法が発生するのは、作中人物のテクストの要素と語り手のテクストの人称代名詞および所有代名詞が融合するときであることを意味する。そのことを以下の例文で見

訳注 7）蕭乾・文潔若訳『尤利西斯』（南京：訳林出版社，1996）では、この部分を次のように人称代名詞「他们」を伴ったかたちで翻訳している。
他们在学校里都是好学生吗？　（第二部 第十章，416 頁）
ただし、この中国語訳から原文が自由間接話法であることを推測することはまず不可能である。なお、原著者は中国語訳の出典を明記していないが、上原尉暢氏の調査により、金隄訳『尤利西斯』（北京：人民文学出版社，1994）338 頁によることがわかった。

てみよう。これは付録２のテクストから採ったものである。

(10) 没有，绝对的没有锁上，不然，为什么她记忆中没有这动作啊？
She had not, definitely not, locked it; why else did she have no recollection of this movement?
［かけてない、絶対に鍵をかけてない、かけたなら、どうしてその動作が記憶にないのだろう。］

この文には作中人物のテクストの要素がいくつか存在する。例えば、「绝对的」（‘definitely’［絶対に］）と、文末にある疑問のモダリティを示す語気助詞「啊」（［だろう］）である。語り手のテクストは、人称代名詞「她」（‘she’［彼女］）で表されており、それは物語内の発話者を指している。

5. 動詞の時制が欠如していることの効果

例文(10)ではわずかに一つの代名詞しか用いられておらず、中国語において人称代名詞が省略されがちであることの例証となっている。原典においてこの直後に続く文は、同じような意味を述べているが、人称代名詞や所有代名詞は一つも使われていない。

(11) 没有把保管箱锁上？真的？这是何等重要的事！
Had she left the safety deposit vault unlocked? Really? How serious!
［金庫に鍵をかけなかった？ 本当に？ なんて大変なことでしょう！］

上の例の場合、コンテクストによってしか、読者はこの文を自由間接話法だと判断することができない。つまり、先の例文(10)のように、前後の文章に三人称代名詞または所有代名詞が存在してはじめて判断できるのである。例(11)の文だけでは、このような解釈を確定するに足る十分な言語標識が備わっているとはいえない。

全般的にいってテクスト中に、十分に明確な言語学的標識を伴った自由間接話法の文が現れることはまれである。ほとんどの文はコンテクストとの関連の中ではじめて分析可能となる。言い換えると、中国語の自由間接話法は、印欧諸語と比べて、コンテクストの果たす役割がはるか大きいのである。

一人称の語りの場合には、別の問題が生じる。なぜなら、中国語において

は動詞の時制は自由間接話法と直接話法を区別する際に、印欧諸語の場合のようには役に立たないからである。先に引用した例文(9)を拡大して、このことを説明しよう。

(12) 一个人自由自在，我便总喜欢自己陪着自己。
Alone and free, I always liked to keep myself company.
［ひとりぼっちで自由気まま。私はいつも自分で自分のお供をするのが好きだった。］

この文は直接話法に解釈することもできる。その場合には、英語では現在時制に翻訳されなければならない。

(13) Alone and free, I always like to keep myself company.
［ひとりぼっちで自由気まま。私はいつも自分で自分のお供をするのが好きなの。］

前後の文脈の中で、上の文は作中人物の私ではなくて、語り手の私による思考を表したものとなることを意味する。この解釈もまた同様に可能であり、しかも二つの選択肢のどちらを採るかを決定づけるような言語学的要素は存在しないのである。

要するに、中国語に自由間接話法は存在するが、それは印欧諸語よりもはるかにコンテクストに依存したかたちで存在する、ということができよう。ときには、とりわけ一人称の語りの場合には、コンテクストですら自由間接話法と直接話法を識別することができないのである。そのような場合には、その一節は真に不確定となるのである。

付録

1. 火车已经开过三站，这包厢的其他铺位依然空着，多半没人来，那可真要谢天谢地了！长途旅程中，没熟伴，就最好也没生伴，一个人自由自在，我便总喜欢自己陪着自己。在淡漠中寻求宁静。只有在没人的地方才自由么？在没人的地方活着还有什么意思呢？

几小时前天就黑了。可是忽然外边射进的强光照得眼睛发花……

The train had already passed three stations and the other berths in the

compartment were still empty, maybe nobody would come, that would be really welcome! When you had no familiar companions on a long trip, it was better to have no company at all, alone and free, I always liked to keep myself company. Dream away quietly. Is one only free with no people around? But what fun is it living where there are no people?

It had already been dark for a few hours. But suddenly a blinding light flashed in...

［列車は駅を三つ通過した。そのコンパートメントのほかの寝台は空いたままだった。たぶん誰も来ないだろう、本当にありがたいことだ！長旅の道中、親しい道連れがなく、できれば一人の話し相手もいなければ、ひとりぼっちで自由気ままだ。私はいつも自分で自分のお供をするのが好きだった。茫漠の中に静けさを求める。人のいないところでしか自由になれないのだろうか。人のいないところで暮らして、何か楽しいことがあるのだろうか。

数時間前に日は暮れた。だが、突然外から差し込んできた強い光で、眼がくらんだ……］

2. 没有，绝对的没有锁上，不然，为什么她记忆中没有这动作啊？没有把保管箱锁上？真的？这是何等重要的事！

She had not, definitely not, locked it; why else did she have no recollection of this movement? Had she left the safety deposit vault unlocked? Really? How serious?

［かけてない、絶対に鍵をかけてない、かけたなら、どうしてその動作が記憶にないのだろう？ 金庫に鍵をかけなかったですって？ 本当に？ なんて大変なことでしょう！］

参考文献

Coulmas, F. (1986) “Direct and indirect speech in Japanese.” In F. Coulmas (ed.), *Direct and Indirect Speech*. Berlin: Mouton de Gruyter, 161-178.

Doležel, L. (1973) *Narrative Modes in Czech Literature*. Toronto: University of Toronto Press.

冯骥才 (1985) 《感谢生活》，《中国作家》1【訳者補：いま冯骥才《炮打双灯》北京：华艺出版社，1991, 213-287 に所収】

Hagenaar, E. (1992) *Stream of Consciousness and Free Indirect Discourse in*

Modern Chinese Literature. Leiden: Centre of Non-Western Studies.

Hamburger, K. (1968) *Die Logik der Dichtung*. Stuttgart: Klett.【日本語訳：ケーテ・ハンブルガー、植和田光晴訳『文学の論理』京都：松籟社，1986】

Jakobson, R. (1971) "Shifters, verbal categories, and the Russian verb." In R. Jakobson, *Selected Writings II: Word and Language*. The Hague: Mouton, 130-147.【日本語訳：「転換子と動詞範疇とロシア語動詞」，ロマーン・ヤコブソン、川本茂雄監修『一般言語学』東京：みすず書房，1973，149-170 頁所収】

Jespersen, O. (1922) *Language: Its Nature, Development and Origin*. London: Allen and Unwin.【日本語訳：O. イェスペルセン、三宅鴻訳『言語——その本質・発達・起源——』（岩波文庫）東京：岩波書店，1981】

Joyce, J. (1982) *Ulysses*. Harmondsworth: Penguin.【日本語訳：ジェイムズ・ジョイス、丸谷才一・永川玲二・高松雄一訳『ユリシーズ』東京：集英社，1996。中国語訳：金隄译《尤利西斯》北京：人民文学出版社，1994。萧乾、文洁若译《尤利西斯》南京：译林出版社，1996。後者は亦凡公益図書館にも収録（http://www.shuku.net/novels/cnovel.html）】

Schmid, W. (1973) *Der Textaufbau in den Erzählungen Dostoevskijs*. München: Fink. Der Textaufbau in den Erzahlungen Dostoevskijs

施蛰存 (1933)《春阳》,《善女人行品》上海：良友图书印刷公司。【訳者補：いま应国靖编《施蛰存》（中国现代作家选集）香港：三联书店（香港）有限公司，1988, 208-216 に所収】

Woolf, V. (1976) *Mrs Dalloway*. Hammersmith: Grafton.【日本語訳：丹治愛訳『ダロウェイ夫人』東京：集英社，1998。近藤いね子訳『ヴァージニア・ウルフ著作集 3　ダロウェイ夫人』東京：みすず書房，1976。近藤いね子訳『ヴァージニア・ウルフ　コレクション　ダロウェイ夫人』東京：みすず書房，1999。中国語訳：孙梁、苏美译《弗吉尼亚・伍尔夫文集　达洛卫夫人》上海：上海译文出版社，2000】

Translated from **Hagenaar, Elly**, 'Free indirect Speech in Chinese' published in *Reported Speech*, edited by Theo A. J. M. Janssen and Wim van der Wurff, Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins Publishing Company, 1996, pp. 289-298, with the permission of the publishers and the author.